

## 第1回 伊豆市総合計画審議会議事録

開催日時	平成29年11月24日（金）午後7時～9時
開催場所	生きいきプラザ第1.2会議室
出席委員	浅田郁雄委員、浅田恵子委員、安藤孔治委員、飯田正志委員、植松真由美委員、梅原龍一委員、遠藤護委員、小森泰信委員、仙座夏子委員、田足井みさ子委員、出川奈央委員、永岡正人委員、渡邊一夫委員 【13名】
欠席委員	青木喜代司委員、勝呂義衛委員 【2名】
伊豆市	菊地市長、本多副市長、西井教育長、田村市長政策監兼総合政策部長、伊郷総務部長、佐野防災監、梅原市民部長、村井健康福祉部長、堀江産業部長、長谷川会計管理者、金刺教育部長
事務局	佐藤総合戦略課長、三浦主幹、杉山主査、渡邊主任、下村主任、浅田副主任

### 1. 開会

### 2. 委嘱状交付

○菊地市長より委員各位へ委嘱状の交付が行われた。

### 3. 市長挨拶

### 4. 会長、副会長の選任

○事務局より、会長に遠藤護委員、副会長に植松真由美委員を推薦する案が示され、全会一致で承認された。

### 5. 諮問

○菊地市長より会長へ諮問書が手渡された。

6. 議事

- (1)総合計画改定に係るスケジュールについて【資料1. 2】
- (2)総合計画改定に係る市民意見聴取等について【資料3-1. 3-2】
- (3)総合計画改定に係る文教ガーデンシティ事業の整理について【資料4】
- (4)総合計画改定について【資料5-1. 5-2】

【議事(1)、(2)に関する質問・意見等】

委員) 市民アンケートの中で公共交通の整備が挙げられているが、伊豆市でも総合計画に併せて都市計画の見直しを行ってきている。道路や公共交通の体系を踏まえた都市計画と、他の地域の都市計画との関連が必然と思う。修善寺地区は都市計画道路といった重要な道路が明示されなかったため、現況道路を改良していくなど、目に見える形で進めるものと思われる。

委員) 文教ガーデンシティ(以下GC)が白紙になったことで、今後どうしていくのか不安を感じている。中学校までは子供は住み慣れたところで育てたいという意見が多い。人数が少なくなったから統合するのではなく、地域で子育てしていくことに重点を置いて、今後の中学校のあり方について考えていきたい。また、地域に公園がないため、ぜひ作ってほしいという意見がある。公園は十分あると思うが、トイレやオムツ交換台、小さな子供が遊べる遊具など、ちょっとした配慮のあるものを作ってもらえると子育て環境も変わっていくと思う。

委員) 伊豆市でも伊豆の国市でも同じであると思うが、40代、50代の働き手がない。これは人口減少による影響があるのかもしれない。今後どうしたら伊豆市を賑やかにできるのかを提案していきたい。

委員) 伊豆市は広域なため、コンパクトに一つのところに集めて効率的にやってくことが良いと思っていたが、文教GC構想が潰れてしまった。これから高齢者が増加していくため、社会福祉をどう進めていくかが非常に重要なポイントとなる。財政が厳しい中、今後どうやって高齢者や障害者福祉を進めていくのが良いかを考えている。

委員) 文教GCは良い計画だと思っていたが、何が悪くて頓挫したのか理由が明確にわかっていない。資料に掲載されていたアンケート結果を見ると、市が普段思っていることと市民の考えにギャップがあったのかなどについて整理する必要があると思う。今後どういった事業を進めたら良いのか、何が必要なかをもう一度考えていきたい。

- 委員) 市長からこの地域の産業は観光という言葉を頂き、嬉しく思う。ただ雇用関係など非常に厳しい状況が続いている。子育てや子供預かりも民間ではなかなか難しい所があるが、将来、女性の働く場の環境を整えるといった内容が構想に盛り込まれると良い。
- 委員) 移住者に対する支援を市にもっとやっていただきたいという思いがある。夫婦で定住する場合、市からの補助があると聞いていたが、単身の場合、そこまで手厚い補助はない。また移住者にとっては、知らない人がたくさんいる中で、どのように生活していけばいいかわからない状況だと思う。今後、移住される独身の若い世代にも支援があれば良いと思う。
- 委員) 福祉に関しては非常に前進的で、現在は障害を持っているお子さんにも保育士がついているし、障害を持っていてもお子さんを見ていただける環境となり、本当にありがたいと思う。また、現在、自分の自宅を開放し、地域の皆さんの居場所づくりのようなことができれば良いと思う。さくらこども園の取り組みについても少し教えていただければと思う。
- 委員) 第2次総合計画策定時の会議に出席した際に、こども医療費や休日保育の話をしていただいたら、すぐに中学生までの医療費が無料となり、休日保育も始まるなど、こういった意見を吸い上げてくれることに感謝している。私は土肥地区在住であるが、このまちに帰ってきたいと思えるような場所に少しでもできるよう、この場で話をさせていただきたいと思う。
- 委員) 廃校となった校舎跡地の利活用として、3年計画で交流の場づくりに取り組んできた。グラウンドをできるだけ高齢者や小さな子供たちが安全に集えるような場にしたいと考え、全面芝生化を行った。またそこには、小さな子供たちが遊ぶことができる遊具を設置し、その結果、色々な方に利用していただいている。こうした活動を糧に、今回新しい計画に対して具体的に何ができるのかを考えている。
- 委員) まちづくりに興味があり、大学時代からまちづくりをデザインする、成功させるためのプロセスを考えている。西伊豆町のふるさと納税の担当者に取材した際に、仕事量は大変だったが、町民や企業が喜んでくれる、納税額が上がっていくことに対する喜びもあり、頑張れたという話があった。また非常に感銘を受けたのは、町民と一緒に活動できた結果、町民と多く関わることができたことや、まちづくりを進めるにあたって、その関係性も非常に良くなったと話をしてくれた。こういった会議で資料をまとめることで町民等の意見は聴けたし、これで良いだ

ろうというような形で進んでいるやり方自体をデザインしなければ、おそらく上手くいかないだろうと思う。文教 GC についても順調に進んで行ったと思うが、裏返ってしまったということは、市民と市が繋がっていなかったという根本的な問題があったのだと思う。私はこういったことが起きないように何かを変えなければならないと思う。

委員) 日本全国で同じようなことについて、一生懸命対策を考えているが、誰に出会えるかということがまちの魅力なのではと考える。文教 GC も何も間違えてはいないと思うが、みなさんを引き付けるだけの魅力が伝わらなかったように感じている。総合計画は本当に素晴らしいと思っていたが、なかなか皆さんに伝わらなかったという所があったのかと思う。今後4つの市町の魅力を発揮していけば、これが進んでいく方向になるのではないかと感じている。

【議事(3)(4)に関する質問・意見等】

委員) 文教 GC 事業について、入札執行したのがあると思うが、執行したもののうち今回使えるものがあるのかどうかを教えてください。

事務局) 文教 GC 事業の約12haのエリアの基本計画、基本構想を策定する事業が大部分を占めている。その他に農振農用地を解除し、中学校にするための手続きを進めた経緯もあるが、現時点で作ったものをそのまま使用することはなかなか難しい。

委員) 文教 GC について、若い人たちよりも団塊世代、年齢の高い人たちの関心が非常に高かった。子育て世代には内容がわかりにくいということであったり、何より声が上がらなかったなど、非常に関心が薄かった。今後、中学校統合については丁寧に説明していただきたい。中学生は高校、社会に出ていく上で、如何に自分自身を認めてもらうかという部分で、その後の社会において非常に影響が出てくると思うことから、子供たち一人ひとりの個性を大切にされた中学校をつくっていただきたい。また、資料や冊子を作る際には本当にわかりやすいもの、難しい言葉ばかりではなく、わかりやすいものを作っていただきたい。

市長) 大変貴重なご意見、ありがとうございます。私が一番恐れていることは、賛成の方はアンケート等において何も意見を言わずにさらっと提出してしまうことである。また文教 GC はわかりにくいという発言がたくさんあるが、他のタウンミーティングでもあったが、一つ一つの事案は賛成なのに、総合的事業としてしまうと、わからなくなってしまうということになっている。

今後の取り組みについて理解していただくよう、皆さんに丁寧に説明をしていきたい。2度目の失敗は許されないので、今後皆さんからも、進め方などについてご意見を頂きたい。

教育長)

中学校については、全くのゼロベースということで教育振興審議会を立ち上げ、検討を行っている。その過程の中で今考えていることは、一つの結論をもって説明するのではなく、いくつかの案に絞り込んだ段階で、市民の皆さんのご意見を聴いていきたいと考えている。実際、文教GCの時も色々なところに出向いて説明を行ってきたが、思いがうまく届かなかった。今回は今までと違った形で市民の声を聴いていきたい。

#### 7. その他

○次回の会議は12月19日（火）午後7時より同会場で開催予定。

#### 8. 閉会